

9 ロック・ミュージカル(つづき)

レント

ジョナサン・ラーソン(Jonathan Larson)の脚本・作詞・作曲。1996年オフブロードウェイで初演、翌年からブロードウェイで12年連続ロングランを記録。プッチーニの歌劇《ボエーム》を下敷きになっているが、舞台を19世紀のパリから20世紀のニューヨークに移し、登場人物たちはエイズ、同性愛、人種間や貧富の格差などさまざまな現代的問題の中で翻弄される。

ロックミュージシャンのロジャーと映像作家のマークは、古い倉庫ビルを占拠してボヘミアン的な日々を送っているが、ビルの持ち主ベニーから家賃(レント)を払うか退去するよう求められる。社会のさまざまな矛盾や苦しみと戦いながら、多くの友人たちとともに彼らは自分の道を模索する。

10 ロイド=ウエッバー

アンドリュー・ロイド=ウエッバー (Sir Andrew Lloyd-Webber, 1948 -)
英国の作曲家。父は作曲家・オルガン奏者、弟はチェロ奏者。1960年代から作詞家ティム・ライスとともに舞台作品やコンセプトアルバムを製作、1971年の《ジーザス・クライスト・スーパースター》が大成功を収めて新世代のミュージカルの旗手となる。その後も《エビータ》(1978)、《キャッツ》(1981)、《オペラ座の怪人》(1986)などのヒット作を生み、20世紀後半を代表する舞台作曲家となった。



■ロイド=ウエッバー作品の特徴

通作が多い
ライトモチーフないし循環主題による統一
多彩な音楽語法
初期作品にみる宗教(=キリスト教)性

■主要作品

ヨセフ・アンド・アメージング・テクニカラー・ドリームコート	1968
ティム・ライス作詞。旧約聖書による。最初は学芸会用の短編として作られ、その後改作された。	
ジーザス・クライスト・スーパースター	1970
ティム・ライス作詞。聖書を題材にイエス・キリストの最後の7日間を描く。イエスを人間として描く視点が話題を呼んだ。	
エヴィータ	1976
ティム・ライス作詞。女優からアルゼンチン大統領夫人となり民衆から圧倒的な支持を受けたエヴァ・ペロンの生涯を描く。	
キャッツ	1981
T.S.エリオットの連作詩集をもとに作曲者とトレヴァー・ナンが補作詞。個性的な猫たちが都会のごみ捨て場を舞台に、踊りと歌を繰り広げる。	
オペラ座の怪人	1986
チャールズ・ハート作詞。ガストン・ルルーの小説が原作。19世紀パリのオペラ座で繰り広げられる愛とサスペンスのドラマ。	
アスペクト・オブ・ラブ	1989
デイヴィッド・ガーネットの小説により、ドン・ブラックとチャールズ・ハートが作詞。一人の女優とその周辺で巻き起こる様々な恋愛模様を描く。	
ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド	1996
1961年の映画(ブライアン・フォーブス監督)によりジム・スタインマンが作詞。突然表れた一人の男を子供たちは神と信じ込む。	
ラヴ・ネヴァー・ダイズ	2010
グレン・スター作詞。「オペラ座の怪人」の続編、舞台をアメリカに移した、その後の怪人とクリスティーン物語。1年半ほどで終演となった。	